

# 天馬の記

岡部耕大

29

映画ばかり見ていたかいたが、あった。もちろん、橋本忍も十分に意識した。ファーストシーンはジョン・フォード監督の「荒野の決闘」の模写であったし、ラストシーンは小林旭主演の「赤い夕陽の渡り鳥」の模写であった。とても用語の授業のシナリオではない。

たくて生きている。わたしは国語の女の先生に褒められたかった。女の先生は、教室で生徒一人一人に「飛びたつ雁」のシナリオを返して、感想を述べていた。わたしの番になると「岡部さん、とってもよかよ。それも

## シナリオに三重丸

ととってもよかよかとのよ。あなた、才能あるとよ。それも褒められる。教室中に拍手が起こった。シナリオには三重丸と花丸が鮮やかであった。わたしは有頂天になった。わたしは褒められると有頂天になるタイプ

である。その日が、脚本を書いた。映画監督をすると決めた日である。その日が、脚本を書いた。映画監督をすると決めた日である。その日が、脚本を書いた。映画監督をすると決めた日である。

喜美子先生の名字が変わって1年が過ぎたころ、喜美子先生は出産で学校を休まれた。男の子が生まれたとのお知らせが教室中を駆けめぐった。「先生の家は訪ねてみたか」と同級生のだれかがいった。放課後の教室に

の見える峠を越えて喜美子先生の家へ向かった。海には白い波が押し寄せていた。「白馬が走りよる」とだれかがいった。松浦では、押し寄せる白い波を白馬が走ると表現した。好きな表現である。



おかへ、こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋樹劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミニシナリオを指導している。川崎市在住。70歳。

(松浦市出身)